

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中の部

令和三年度九月 入賞句一覧

投句数 千四百四十二句



特選

説田 祐子 選

芭蕉像静かに聞きいるせみの声

大垣市

岩本 一斗(小六)

作者は、俳句の町大垣の象徴である結びの地に建てられている芭蕉像の石碑を見学した時の様子や、結ぶの地辺りは、さほど騒々しくもありませんが、そんな中でも「芭蕉像静かに聞きいる」という表現がいいですね。ひよつとしたら作者は、芭蕉さんは、せみの声を聞きながらもう一句、せみの句を作ろうとしたのかも、思えたのかもしれないですね。そんな中で作者は芭蕉さんも喜びそうな楽しい俳句ができました。

はつおぼんひいばあちゃんはげんきかな

大垣市

柳瀬 才嬉(小二)

「はつおぼん」とありますから作者のひいばあちゃんが、なくなられて初めてのお盆がきたのですね。家族で、仏さまにおまいりしたり、お墓まいりなどをされたときの気持ちが、よく出ています。作者の気持ちは、きつとひいおばあちゃんに届いていることでしょう。

ひまわりはみんななかよしおなじむき

大垣市

なわ しょうま(小二)

夏の花の代表であるひまわりの句はたくさんありますが、「みんななかよしおなじむき」という書き方がいいですね。よく見ると、たしかにひまわりは、その名の通り、お日さまの方をむいてさいています。この句をつくった作者も日頃から「みんななかよし」っていい事だと思っている心が伝わってきます。

秀逸

町中が夕焼け色にそまってく

大垣市

海老 柚葵(小六)

かがみ見てひやけのマスクできていた

大垣市

市川 瑛斗(小五)

夏の川みなものひかりこぼれだす

大垣市

吉田 杏(小六)

さきほこるひまわりの中登下校

大垣市

河合 正志郎(小四)

ひまわりがこちらをむいてにこにこだ

大垣市

河合 珠里菜(小三)

せみが鳴く家の中でもひびいてる

大垣市

平塚 ちさと(小三)

ひまわりが太陽のこと見ているよ

大垣市

種村 和真(小三)

どんぐりが兄弟そろって落ちてきた

大垣市

高橋 結愛(小三)

なつやすみいってしまつたかぜにのり

大垣市

りゅう いしえん(小四)

トンボたち出番が来ててうれしそう

大垣市

野中 まい(小四)

